

HopStepJump



授業づくり⑤

<https://toyono-jinjikyo.com/>

～ 授業の導入・展開・まとめについてⅢ ～

第8回の初任者研修は、前回のコラボ研に引き続き大阪教育大学附属池田小学校・中学校を会場に行いました。小学校班は1年国語、2年算数、4年体育、5年国語の授業の中から一つ、中学校班はそれぞれの担当教科の授業を見学し、授業後に附属の先生と研究協議を行いました。

子どもたちの反応、それに対する先生の反応、子どもたちの発言をつなげ、次の学びへと進める先生の発言等、授業が進むにつれ、子どもたちの学びが広がり、深まる授業を実際に見学することで、たくさんのことに気づき、教材研究の奥深さと意義を改めて感じた初任者も多くいました。

研究協議では、子ども主体の授業を支える授業者の意図、授業づくりに対する考えや思いを知ることで一層確かな学びになりました。また、授業者の先生が初任者の質問に対して丁寧に答えてくださり、日ごろの悩みが解決し、ステップアップする様子も各教室で見られました。

～振り返りシートより～

《小学校班》

ほとんど子どもの声で進めていく授業に驚きました。私はいつも授業中に子どもの意見を解説してしまったり、はじめから話しすぎたりすることを課題としています。今日の先生の子どもの意見に対する反応の仕方を明日から参考にさせていただきたいと思います。私自身の反応によって子どもたちの考えに制限をかけてしまっているかもしれないと反省しました。また、子どもたちにはもっと自分の意見を持たせて、さらに、それを言いたいと思えるような雰囲気づくりをしていきたいと思います。

子どもたちが何をやるんだろうとワクワクするような場の設定で、声のかけ方も工夫されているなと思いました。また、机間指導ではできるだけ多くの子どものノートや発言に対して声をかけて反応することで、安心して書き進めたり、発表したりできているところがとても多く見られました。前後の授業のつながりや、他の教科書との比較をしながら授業を考えられていて、とても勉強になりました。

教科書やノートを開かせるタイミングなど、子どもを集中させる基本的な授業づくりについても学ぶことができました。また、ペアワークをさせる意義や必要性も感じ取れ、明日からの授業づくりに生かしていこうと思いました。「ノートは写すものではなくて残すもの」という言葉がすごく心に残りました。普段の授業では余計なことを書かせてすぐ時間がかかっていると思いました。

ICTを活用することを目的とするのではなく、活用したら何ができるようになるかということを明確にすることが大切であると学びました。また、ワークシートを活用する意義、その中の自己評価を文章化させることも考えていきたいと思いました。

教材研究の在り方や準備しておくべき観点について授業の形態や児童・クラスの様子が変わっても共通して行えることなので参考になりました。意見を出させるための準備・時間の使い方の重要性について見直していけないと思います。

「発表するためには自分の意見を持つこと」というのは改めて大切だなと感じました。そのために一人学習の時間をしっかりと設け、子どもたちの交流を取り入れ、より内容を深く理解できるような流れを組まれていてすばらしいと感じました。リレー形式で発表が進んでいったところを見て、発表も積み重ねでやっていけば、子どもたちだけでどんどん流れていくのかなと思ったので、私もめげずに発表にこだわって子どもたちと授業をつくっていきたいです。子どもの言葉で授業や板書がつくられていく様子に私自身参加したくなるような授業でした。

授業を見学し、自分の授業が教え込みの授業になってしまっていることに気づかされました。一つの授業にかけられる時間があまりないのが現状なのですが、子どもたちのためにも、子どもたちも楽しめる授業を計画できるようにしていきたいと思いました。

また、小学校班では授業見学の前に大阪教育大学附属池田小学校の荒川副校長先生に安全教育・危機管理について講義をしていただきました。

安全教育・危機管理についての話を聞き、徹底した学校での体制がとられていて感心することばかりでした。子どもの命を守るために、教師としての自覚を持ち、意識をもっていこうと思いました。

《中学校班》

一つの授業に対して、進め方や発問の工夫、生徒の意見の吸い上げ方など、丁寧に研究されていると感じました。また、他の先生方の質問からも学ぶことがたくさんありました。特に教材研究の仕方については取り入れたいと思えることが多くありました。

私は普段、ホームルームや授業の中で声を常に張り上げているので、今日の授業を見て、常に落ち着いた声のトーンで話されていたにも関わらず、生徒たちは話を聞こうとしていて、話し方もメリハリが大切だと気づきました。

実際に授業を見せていただいて、ポイントをしぼる大切さを実感することができました。今までは何に焦点を当てるか事前にしぼる意識を持っていても、「あれを説明しなくては……」と意識がいつてしまっていたと思い、本日自分が実感したはっきりとしたポイントをもとに、改めて授業を考え直したいなと思いました。

意見を共有する方法(グループワーク、ペアワーク、全体共有等)はたくさんあるが、それらを場面によって使い分けることを学びました。また、子どもたちが学習に取り組みやすいよう発問の工夫をしようと思いました。

気持ちの切り替えが難しい生徒に対して、時間指定のルールを決めるなどの手立てや視覚的情報で明示するなどの手立ては自分もやってみようと思いました。成績に関しても小テストなど誰のための小テストなのかをしっかりと生徒に伝えることの大切さを感じました。

テストに向けて普段の授業をどう進めていったらいいのかのヒントをたくさんもらった気がします。今やっていることを better にできるように少しの工夫をがんばりたいです。

悩んでいるのはやっぱり評価のことでした。来年度から4観点から3観点になるので、どうしたらいいんだろうと同じ教科の先生と話げできたのでよかったです。

最後に、2年目の先生の振り返りシートを紹介します。

「自分のクラスにどう活かせるか」を念頭に置いて授業を見学しました。今日の授業では、授業者の先生がおっしゃられていた「子どもの発言から始まっていく、組まれていく授業」が軸に据えられていて、どんどん子どもが発表する様子に驚きました。これまでにやったことのない授業スタイルだったので、参考にさせていただこうと思いました。

授業見学は毎回、自分の引き出しを多くできる貴重な時間なので見学できてよかったです。プリント作成時の工夫、教材研究の仕方など学校に帰ったらいかしていきたいです。

今は初任者なので他の先生の授業を見る機会が多くあるかもしれませんが。その際に「学校やクラスの実態が違うから自分にはこんな授業はできない」と考えていると、せっかくの機会が無駄になってしまいます。「どうすればその授業に近づけるか」、「活用、実践できることはないか」、「こうすればもっといい授業になるのではないか」といった視点で授業を見て、一つでも多くのことを学び取ってほしいです。そして、初任者研修を終えてからもその機会を自らつくり、授業づくりに真摯に向き合い学び続けてください。